

ま え が き

横浜国立大学留学生センター紀要も、本号の発刊をもって、10号を数えることとなった。本紀要巻末に一覧表で示した、この10年間に掲載された論文の集積は、そのまま、本センターの、学内共同「教育研究」施設としての実績を示している。

本センターの業務は、横浜国立大学留学生センター規則の定めるところでは、予備教育生を含む（多様な）留学生に対する、日本語および日本事情に関する教育と修学上・生活上の指導助言、海外留学を希望する学生に対する、修学上・生活上の指導助言に拡張されてきているが、これらを十分に全うしつつ、センター教官は更に、全学の教育に協力して、英語による教育や、日本人学生に対する教養教育を中心とした教育にも関わっている。

教育は、その内容と方法において、研究の成果を必ず反映するものであり、10年間の紀要掲載論文は、そのテーマも含めて、センター教官のこうした業務すべての充実を示しているように見える。そして、その研究領域の広さと深度は、大学全体としてみると、更にこれを活かしていく余地があるように思われる。

既に、本センターは、一定の自己評価のもとに、中期目標と中期計画を策定し、教育・研究・社会貢献に関する一定の将来像を描いているが、自己評価報告書の提示とそれに基づく外部評価は次年度前半に行われることが予定されている。この紀要も、その資料として、評価を待ちたいと思う。

横浜国立大学 留学生センター長
田 中 利 幸